

日本史探究 第1回 授業の進め方とポイント

【第1回テーマとEQ】

縄文時代から弥生時代へ

～国家（クニ）はどのようにして成立するようになったのでしょうか～

【第1回の解説ポイント】

- ・縄文時代と弥生時代それぞれの生活様式の特徴と違いを理解する。
具体的な道具の変化に触れながら、食料獲得手段の変化に注目する。(狩猟・採集→稲作)
- ・弥生時代に稲作が伝わり、人々が定住するようになり、集落（ムラ）が作られる。
- ・稲作を効率的・安定的に進めるために共同作業が必要となり、その共同作業を支えるために集落（ムラ）に有力者が登場する。
- ・稲作によって食料の保存が可能となり、富める者と貧しい者の差(貧富の差)が生まれる。
→集落(ムラ)の有力者が支配者となり、有力な集落が周辺の集落を支配するようになる。
- ・複数の集落（ムラ）が集まり小さな国家（クニ）が成立するようになる。

縄文時代から弥生時代への変化の中で、それまでの狩猟・採集の生活から稲作を中心とする生活へと人々の暮らしが変わることによって、集団の中から有力者が登場するようになり、支配・被支配の関係が生まれてきたことを理解したい。

そして、そのような流れは日本の歴史に限られるものではなく、世界史的な初期国家の成立過程とも共通するものであり、各国の原始・古代の歴史とも結びつけながら理解することも可能である。

【これまでに出了された留学生からの質問】

・「縄文時代や弥生時代については、中国の歴史書からの情報ばかり登場するのですが、日本の歴史書には登場しないのでしょうか？」

→縄文時代・弥生時代の日本には「文字」文化が無かったため、文字で記録されたものが残されておらず、中国との交流の中で残された記録に頼るしかない。

・「なぜ奴国や邪馬台国は、中国から金印をもらわなければならなかったのですか？」

→小さな国家（クニ）同士が対立していた状況において、強大な中国の王朝からの協力・支援は効果絶大。その関係を示すものとして中国皇帝から金印が授けられた。

【教材について】

歴Ⅰ-2 第Ⅰ回のテキスト(ルビなし・ルビあり・英訳・中国語訳)

重要語句には、黄色マーカーをつけ、□で囲ってあります。

地名・国名には下線がつけてあります。

人名には波線がつけてあります。

※地名や人名などの固有名詞は知らなければ理解できないものの代表格です。

とりあえず、それが地名である、または人名であるということがわかると、理解の手がかりになります。

英訳・中国語訳にも日本語の重要語句との対応がわかるよう、日本語(と読み方)が入れてあります。

歴Ⅰ-3 ワークシート

考えてみよう：冒頭にEQ(一番理解してほしいポイント)が提示してあります。

書いてみよう：末尾に、理解したことをアウトプットする欄があります。

生徒の日本語力により、母語で書いてもいいことにしましょう。

テキストを見ながら空欄を埋めていきます。

歴Ⅰ-4 ワークシート 答え入り

空欄に赤字で答えが入っています。

「書いてみよう」にシンプルな日本語で解答例が入っています。

母語で書いたのを見比べて、日本語の書き方を学ぶことができます。

歴Ⅰ-5 重要語句説明

重要語句の説明を、日本語と英語で示しました。

アプリなどを使って生徒の母語に翻訳する際は、英語の説明を使った方が正確な訳が出るようです。

歴Ⅰ-6 確認テスト

重要語句の確認、復習のため、語句と説明をペアにした問題形式のシートです。